

リニューアルされた等々力球場の照明は、LED 投光器を採用し、JIS-Z9127 に基づいた各運動競技区分に適合する照度にボタンひとつで切り替え可能。競技者にとっては眩しさを抑え競技に集中しやすい光環境を、観客にとっては活気あふれるプレーを快適に観戦できる光空間を創出しています。

等々力球場は川崎市の等々力緑地内に立地する野球場で、1967年に供用が開始されて以降、高校野球、社会人野球、首都大学リーグなどの公式大会や練習に活用されてきました。今回のリニューアルにより、フィールドは両翼100m、センター 122mと、横浜スタジアムを上回り県内最大規模の球場に。外野の外周にある園路からも球場内を見ることができ、公園と一体化した開放的な設計も特徴となっています。



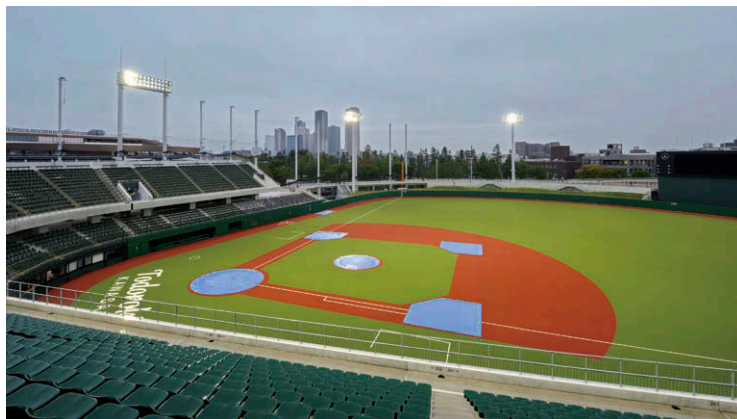
【物件概要】

所在地：川崎市中原区等々力1番
 建築面積：6,300.48㎡
 延床面積：11,980.1㎡
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、プレキャスト鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・地上3階建
 施主：川崎市
 設計：(株)山下設計
 施工：建築/鹿島・石井・松浦共同企業体
 電気/千代田・信号器材共同企業体
 リニューアルオープン：2020年10月

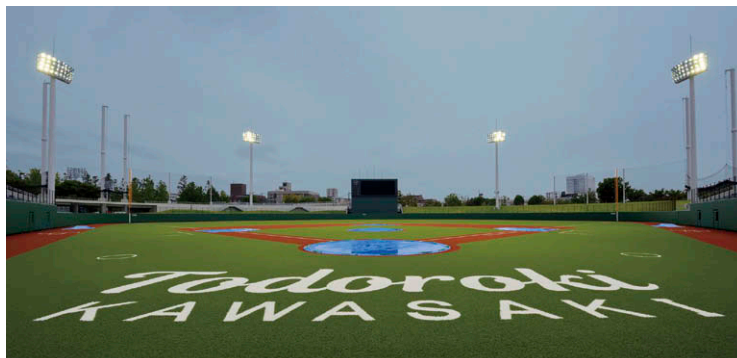
LED投光器を効果的に配置し、間引き点灯による意匠性も持たせながら、公式大会に対応する照明環境を実現。

今回リニューアルされた等々力球場の照明は、最新の JIS-Z9127 に基づいた設計とし、各運動競技区分の平均照度、均斉度を満たした、公式大会に対応する照明環境を実現しています。全6基の照明塔のうち、ホームベース側の照明塔2基では12列3段構成、内野および外野側の照明塔4基では9列4段構成で配置。近くを照らす広角配光の器具は下段に、その少し遠くを照らす中角配光は中段に、より遠くを照らす狭角配光は上段に配置しています。

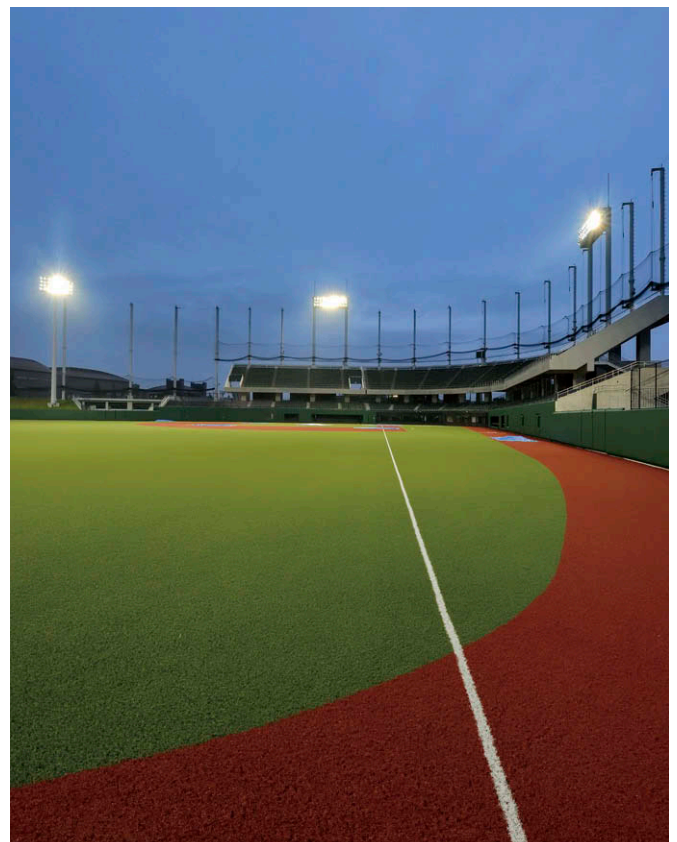
例えば、硬式野球の「運動競技区分I」では平均照度が内野 1,000ルクス以上、外野 750ルクス以上、「運動競技区分II」では内野 750ルクス以上、外野 500ルクス以上と定められている各競技区分に対応して4段階の照度レベルを設定し、ボタンひとつで変更が可能。照度レベルの変更は、点灯状態に意匠性を持たせるため、調光ではなく間引き点灯によって対応し、内野、外野の照明塔は1段階ずつ順番に間引き点灯していくようデザインされています。



3階客席から左方向を望む 硬式野球「運動競技区分I」の照度で点灯。LED投光器①②③の効果的な配置により、内野から外野への滑らかな照度変化も確保。



ホームベース後方からセンター方向を望む 全6カ所の照明塔のうち内野・外野側に配置された4カ所の照明塔。それぞれにLED投光器①②③を配置。



左側ファウルライン上 LED投光器①②③の配光を綿密に計算しグラブを抑えた光環境を実現。2本脚の照明塔はホームベース側照明塔。



LED投光器
 1.5kW効率重視形
 メタルハライドランプ
 器具相当
 (写真は中角形)

主な掲載器具一覧

設置場所	器具名(品種名)	形名	台数	備考
照明塔	① LED 投光器 1.5kW 効率重視形メタルハライドランプ器具相当 狭角形 耐塩形	LEDS-70409NN-LJ2	34	消費電力：800W
	② LED 投光器 1.5kW 効率重視形メタルハライドランプ器具相当 中角形 耐塩形	LEDS-70409NM-LJ2	132	消費電力：800W
	③ LED 投光器 1.5kW 効率重視形メタルハライドランプ器具相当 広角形 耐塩形	LEDS-70409NW-LJ2	50	消費電力：800W